



2019年5月24日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106
アウディ コミュニケーションセンター

アウディ 2.0 TFSI エンジンが インターナショナル エンジン オブ ザ イヤーを受賞

- 150~250hp カテゴリーで、クラスアワードを獲得
- アウディ製 TFSI (直噴ターボ) にとっては 15 年連続での受賞
- 「2.0 TFSI はハイブリッドから CNG まで、幅広い用途が特徴」 ハンス ヨアヒム ローテンピーラー (AUDI AG 技術担当役員)

2019年5月22日、インゴルシュタット/シュトゥットガルト：多国籍の70名からなる専門家の投票の結果、アウディ製 2.0 TFSI がインターナショナル エンジン オブ ザ イヤーの 150~250hp カテゴリーでクラスアワードを受賞しました。授賞式は「エンジン エクスポ+パワートレイン テクノロジー ショー2019」の一環として、メッセ シトゥットガルトにて行なわれました。

選考委員は、この 2.0 TFSI エンジンを「これまで見たなかでもっともフレキシブルで多用途に適用できるエンジンです。何でもできる、とさえ言えるでしょう」と要約しました。AUDI AG 技術担当役員のローテンピーラーは「このエンジンが、その適用範囲の広さを理由に受賞したのは大変喜ぶべきことです。我々はこのユニットを純粋なガソリンパワートレインだけではなく、プラグインハイブリッドのベースとしても使いますし、また天然ガスや Audi e-gas にも使用可能なのです」とその強みを強調しました。

またローテンピーラーは高い評価を受け続ける TFSI について次のように語っています。「我々は最初の TFSI を 2004 年に市場投入しました。それ以降、2.0 TFSI は毎年クラスウィンに輝いてきました」2005 年から 2009 年にかけて、2.0 TFSI は 2 ℓ カテゴリーで連続受賞をしており、また 2010 年から 2018 年では、2 ℓ 以上の大排気量カテゴリーにて直列 5 気筒の 2.5 TFSI がアワードを獲得しています。2019 年ではクラス分けが排気量から出力ベースへと変更されましたが、我々の 2 ℓ 直列 4 気筒エンジンは、再びポディウムの中央に立つことができました。

TFSI とは直噴ターボエンジンを意味するフレーズの頭文字を取ったものです。アウディは 2004 年、ターボチャージングと燃料筒内直接噴射の技術を組み合わせて量産し、新しい時代を切り拓いた最初の自動車メーカーです。当時の戦略は「ダウンサイジング」として広く知られ、ターボチャージングによって実排気量を減らし、環境性能に貢献するものです。ちなみに TFSI を採用した最初のモデルは Audi A3 Sportback (2.0 TFSI) でした。その次世代にあたるのが、開発コード「EA888」の名で呼ばれるユニットで、これは世界中のマーケットを視野に入れたものでした。このエンジンはハンガリー ジュール工場、中国 大連工場など世界のエンジンプラントで生産されています。

*現在、2.0 TFSI は 10 のアウディモデルラインに搭載され、パワーレンジは最高 245hp に達します。2019 年のジュネーヴ モーターショーでは、強力な電動モーターと 2.0 TFSI を組み合わせたプラグインハイブリッドの Q5 が発表されました。一方この 2.0 TFSI はミッドサイズの g-tron モデルにも採用されています。ここでは燃料として天然ガス (CNG) や Audi e-gas を使用します (Audi e-gas は、サステナブルな生産工程で大量生産が可能なガスの名称です)。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。